

会 議 録

会 議 の 名 称	第4回 所沢市保健医療計画推進委員会
開 催 日 時	令和7年2月13日(木) 18時30分から20時00分
開 催 場 所	所沢市 保健センター 多目的室
出 席 者 の 氏 名	※別紙 「所沢市保健医療計画推進委員会委員名簿」のとおり
欠 席 者 の 氏 名	
説明員の職・氏名	様式第2号発言者のとおり
議 題	(1) 所沢市保健医療計画進行管理スケジュール等について (2) 「第3次所沢市保健医療計画」コンセプト案について (3) 新型インフルエンザ等対策行動計画について (4) その他
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 資料1-1 令和6年所沢市保健医療計画進行管理スケジュール ・ 資料1-2 第2次保健医療計画令和5年度取組状況評価シートの一部修正について ・ 資料2-1 「第3次所沢市保健医療計画」のコンセプト(案)について ・ 資料2-2 第2次所沢市保健医療計画 目標指標達成度一覧(令和5年度) ・ 資料3-1 所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について ・ 資料3-2 発生段階ごとの対策の概要(県・市) ・ 資料4 意見シート ・ 参考資料 令和6年度第3回所沢市保健医療計画推進委員会における意見シート及び対応

担 当 部 課 名	健康推進部	部 長	越智 三奈子
		次 長	小山 貴之
		保健センター長	中村 まさみ
		保健医療課長	河西 秀樹
		保健医療課副主幹	佐藤 征逸
		保健医療課主査	八川 麻紗子
		保健医療課主任	小貫 由依
		保健医療課主任	日野 航介
		健康管理課主幹	小野寺 健
		健康づくり支援課長	岩雲 美香
		健康づくり支援課主幹	近藤 真弓
		こども未来部	
		こども家庭センター長	松井 優子
	こども家庭センター主幹	美甘 有利恵	
事務局 健康推進部保健医療課 電話：04（2998）9385			

※別紙 所沢市保健医療計画推進委員会 委員名簿

No.	所 属	氏 名	出欠	備 考
1	公募委員	二瓶 広和	○	
2	公募委員	碓谷 栄治	○	
3	公募委員	小野 向日葵	欠	
4	公募委員	丸山 香	○	
5	所沢市医師会 会長	赤津 拓彦	○	※委員長
6	所沢市歯科医師会 副会長	北田 徳克	○	
7	所沢市薬剤師会 副会長	塚本 京子	○	
8	所沢市柔道整復師会 副会長	吉田 南成	○	
9	所沢市鍼灸師会 会長	原澤 清一	○	
10	所沢市母子愛育会 会長	大里 節子	○	
11	所沢市食生活改善推進員協議会 会長	丸山 静香	○	
12	所沢市スポーツ推進委員会 副会長	須藤 貢	○	
13	所沢市社会福祉協議会 事務局長	黛 浩一郎	欠	
14	所沢市介護保険サービス事業者 連絡協議会 会長	米川 智裕	○	
15	早稲田大学 人間科学学術院長・人間科学部長	扇原 淳	欠	※副委員長
16	知識経験者	瀬能 幸則	○	
17	狭山保健所 副所長	田島 貴子	○	
18	埼玉西部消防局 所沢中央消防署長	後藤 依左明	○	
19	市民医療センター長	黒木 康富	欠	

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局（河西）	＜開会＞
赤津委員長	（挨拶）
事務局（河西）	<p>出席者は15名で過半数を超えているため、条例の規定により委員会の成立を報告する。</p> <p>委員会については、公開とし、会議録は要約方式、発言者は委員名を記載、会議録は委員長の承認を持って確定とする。</p> <p>（配布資料の確認）</p>
赤津委員長	<p>（傍聴者確認）</p> <p>傍聴者1名に傍聴について説明。</p>
赤津委員長	<p>＜議事＞</p> <p>議題（1）所沢市保健医療計画進行管理スケジュール等について、事務局より説明願う。</p>
事務局（日野）	<p>（資料1-1 令和6年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュール、資料1-2 第2次保健医療計画令和5年度取組状況評価シートの一部修正について説明）</p>
赤津委員長	<p>議題（1）についてはスケジュールの説明等で議論の余地はないように思うため、特に質問等はないかと思う。</p>
赤津委員長	<p>議題（2）「第3次所沢市保健医療計画」コンセプト案について、事務局より説明願う。</p>
事務局（小貫）	<p>（資料2-1 「第3次所沢市保健医療計画」のコンセプト（案）について、資料2-2 第2次所沢市保健医療計画目標指標達成度一覧（令和5年度）について説明）</p>
赤津委員長	<p>コンセプト案は、非常に膨大な内容がまとめられている。注目されるポイントは以前から同じなので、時代の流れに応じた変化を考慮する必</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>要がある。具体的には超少子高齢化により支え手のいない人が増えていることやSNS等の世代間の情報格差等がある。経済的な事情でインスタント食品しか食べていないという患者も多い。</p> <p>限りある税金は、皆が納得しながら使われなければならない。事業に投資した金額に対する成果を明示することや単に通知を送付するだけでは郵送料の負担もあるので、通知による成果や関連した活動の実施を考慮する必要がある。</p> <p>今後は個別通知ではなく、SNSを活用することで情報が届かない人が出る懸念がある。様々な問題があるが、若い人たちが夢を持って暮らせるような計画が望まれる。</p>
赤津委員長	<p>コンセプト案について、ご意見をお伺いしたい。</p>
瀬能委員	<p>現行の保健医療計画は、複数の計画を包含しており、非常に分量も多い。また、取組に対する評価事項が非常に細かく定められており、議論にも時間を要している。計画の性質上仕方がない面もあると思うが、市民の目線で見たと時に、もう少し分かりやすくできると良い。</p> <p>例えば重複するところは統合し、他の計画で触れており、この計画で必ずしも進捗管理や評価をする必要がない項目はカットし、スリム化を図った方が良い。幅広い項目を取り扱っているため、焦点が絞りがづらいつ部分もあると思う。市民に分かりやすく、できる限り見やすい計画にしてほしい。</p>
赤津委員長	<p>計画のスリム化について、達成度が非常に高いものは省略または表現を変える等の必要がある。</p> <p>コンセプト案の実現には、「健康を支え合う取り組み」が重要である。今後、日本が右肩下がりの局面を迎えた時、過去の貧しさを知る世代は耐えられるかもしれないが、現在の物質的豊かさを享受している若い世代が、他者を思いやることができる社会を築くためにも「健康を支えあう取り組み」を実施してほしい。</p> <p>何でも無料でしてもらえ施策ばかりが優先されるような社会にしないためにも、しっかりした計画に基づいて進めていく必要がある。</p>
赤津委員長	<p>他にご意見があればいただきたい。</p>
塚本委員	<p>高齢者が生きてきた生活環境と若い人たちの生活環境は、大分違ってきているのではないか。そのような状況も考慮する必要がある。誰にで</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
米川委員	<p>も手を差し伸べられるような保健医療計画が望まれる。</p> <p>先ほど瀬能委員がおっしゃったように、保健医療計画は広い範囲を対象としたものだと感じる。所沢市民全体に影響を及ぼしていくためには、分かりやすくスリム化する形でもいい。</p> <p>ハイリスクの人には、保健師や精神保健福祉士等の専門職による取り組みが必要だが、リスクのない人に対する取り組みの周知方法が難しいと常々感じている。</p> <p>若い世代には、費用対効果の観点からも、個別対応より SNS や、市以外の関連機関の情報を活用し、効率的で広く優良な情報提供が必要である。若い世代はネットが身近にあり、世代によって情報取得方法が二分化しており、難しいとは思うが、少しずつ取り組めればと思う。</p>
須藤委員	<p>資料について、文章で記載するより、グラフで変化を見やすく、一般の人たちにも分かりやすく作成してほしい。</p>
赤津委員長	<p>評価が維持及び達成の取組の中で、無理をして達成することと、余裕を持って達成することでは全く意味が違ってくるのではないか。</p>
後藤委員	<p>委員長がおっしゃった内容はそのとおりだと思う。コンセプト案には救急医療体制の整備や災害時医療の記載があるが、救急要請件数が非常に多い現状で、病院の整備等だけではなく、救急車の適正利用が重要なポイントである。病院の受け入れ体制が多くても、搬送する救急車が出払っている状況があるため、救急車の適正利用も計画の記載に加えてほしい。</p>
赤津委員長	<p>タクシードライバーも高齢化が進んでいる。タクシーを見かける台数も減っており、夜間に体調不良になっても、自分で交通手段を確保できない世の中になってきている。救急車の適正利用を促すにあたり、交通手段を確保できない人をどう救えるか、民間あるいは行政の組織で取り組むのか等を考えなければならない。</p> <p>病院でも軽症患者の受診で外来がパンクしている。この地域で一番救急を受け入れている医療機関では、1日に多い時で救急車三十数台の受け入れがあると伺っている。</p>
後藤委員	<p>通常は予備車があるが、所沢中央消防署は予備車を置かず、3台稼働している。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>以前と比べ状況が悪化しているが、市民に伝わっていない。救急要請が増えているという周知はしているが、職員もそれに見合っていないのではないか。</p>
後藤委員	<p>所沢中央消防署では、今年度から新たに日勤救急隊を設置した。所沢市内の救急件数が他市と比べて多いため、日勤で毎日救急車に乗る隊を一つ作っている。8時30分から17時15分まで多い時で1台あたり7～8件出動がある。1事案で受け入れを2時間～3時間、十何件断られる場合もある。実際のところ救急隊員も逼迫して、昼食もとれない中で回している。難しい現状をご理解いただきたい。</p>
二瓶委員	<p>最近テレビで、南海トラフの震災発生確率が80%になったと聞いて、コンセプト案の課題を解決するための視点に災害時医療があるので、ぜひ拡充してほしい。</p>
赤津委員長	<p>災害時の医療体制というのは、極めて重要である。私の病院は、東日本大震災の時には計画停電になった。完全にインフラがない状態で、非常用発電の軽油を調達するために、県に救急要請をしたが調達できなかった。近接的な行政には、災害時における地域のインフラのバックアップと、所沢市庁舎や防衛医大病院等周辺道路で緊急車両等が使用できるような制度設計を期待する。</p>
赤津委員長	<p>議題（3）新型インフルエンザ等対策行動計画について事務局より説明願う。</p>
事務局（八川）	<p>（資料3-1 所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について、資料3-2 発生段階ごとの対策の概要（県・市）について説明）</p>
赤津委員長	<p>外国で発生した新興感染症は短期間のうちに日本に侵入し感染拡大するため、予算措置を講じる暇はない。新型コロナウイルス感染症の経験から、新興感染症発生時は国や県の資金や施策がなくても、必要な時に施策を実行するための財政的措置が必要である。それだけの財力が所沢市にあるのかという点も市民に共有してほしい。</p> <p>新興感染症が発生した場合の懸念として、医療従事者が自身や家族の安全を理由に対応をためらう可能性があることを承知してほしい。</p> <p>新興感染症対策には市民医療センターの役割が重要であり、今後積極的に取り組むことを期待する。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	議題（４）その他について事務局から何かあるか。
事務局（佐藤）	事務局から来年度会議の予定等について説明。
赤津委員長	何かご意見はあるか。
委員一同	（意見なし）
赤津委員長	ご意見等あれば、また事務局にお知らせいただければと思う。
事務局（河西）	<p>慎重なご審議をいただき感謝する。来年度は新計画の策定と現計画の仕上げの年であり、皆様の意見を参考にしながら進めていきたいと考えている。また、計画の分かりやすさについての意見や励ましの言葉を受け止め、しっかり取り組んでいく所存である。</p> <p>以上をもって、令和6年度第4回所沢市保健医療計画推進委員会を閉会する。</p> <p><閉会></p>